

消化器内科

【実習目標】

一般目標

消化器内科は、消化器（肝、胆・膵、消化管）、についての的確な診断と治療を目的とした専門分野である。本実習によって消化器内科領域における疾患への理解をさらに深めるとともに、医療チームの一員として診療の実際を介し、医師として必要な知識、態度、技術を体得する。

行動目標

1. 良好な人間関係のもとで患者とのコミュニケーションができる。
2. 患者の立場を配慮しつつ、系統的な診療法により身体所見を得ることができる。
3. 個々の情報を適切に収集し、整理し、関連づけ、患者の問題点を抽出できる。
4. 病態を理解し、診断・治療方針を立てることができる。
5. 診療録の記録ができる。
6. 患者、医師、他の医療スタッフとの連帯の重要性を学び様々の医療従事者と協調できる。

【実習内容】

1. 各学生1名に担当教官1名が指導にあたり、実習態度、知識、問題解決能力を総合的に評価する。
2. 各人1症例を2週間受け持つ。電子学生記録ファイル（消化器内科用）で担当症例のレポートを作成する。レポートは途中、担当教官に添削をしてもらいながら実習期間中に完成させる。
3. 実習期間中に1～2回、当科医師同伴のもと、外来もしくは入院の新患患者の間診を行う。
4. データを総合して病態、診断、問題点、治療について考え、主治医や指導医と討議する。
5. 問題思考型診療録（POMR）により擬似診療録の記録を行う。
6. 肝臓、胆道・膵臓、消化管に関わる検査を見学する。見学した検査についてはレポートを作製し、検査指導医より評価を受ける。
7. 毎週木曜日 10:00 より医局セミナー室1において回診前カンファレンスを行うので参加して出来るだけ多くの症例について学習する。カンファレンスは、対面で実施する。
8. 症例検討会において、担当症例について発表する。
9. 病棟カンファレンスに参加し、受け持ち症例以外の症例についても学習する。

成績評価の方法と基準 実習終了時、指導医により、下記の点をもとに成績評価を行う。

評価項目	配点
指導医による学生の実習態度の評価	20点
症例検討会でのプレゼンテーション	10点
学生用カルテの記載内容	10点
出欠、遅刻	10点

前半2週間(50点)、後半2週間 (50点) の合計100点

【日程表】

第 1、3 週	午前	午後
月	オリエンテーション→新患の問診	患者紹介、検査見学
火	検査見学または新患の問診	検査見学
水		
木	教授回診前カンファ*	
金	検査見学または新患の問診	

第 2、4 週	午前	午後
月	検査見学または新患の問診	検査見学
火		
水		
木	教授回診前カンファ*	
金	検査見学または新患の問診	

*：医局セミナー室1

【注意事項】

1. 時間の厳守。(特に検査見学、症例検討会)
2. 漫然と学習に望むのではなく、医師になる者として自覚を持って望むこと。
3. 服装、態度、言葉使いに気を付けて患者に不快感を与えないように配慮すること。
4. 患者のプライバシー、医師の守秘義務を留意すること。特に、たとえ学生個人の私的な記録であっても患者に関する記録のある用紙などの取り扱いには気を配ること。
5. 白衣、聴診器、筆記用具、診断学のテキストを持参すること。
6. 見学可能な検査、病棟カンファレンスの一覧はオリエンテーションで配布する。
7. 病棟カンファレンスは夕方の授業後時間外に行われることが多いが、積極的に参加すること。
8. 実習終了時に、擬似診療録、患者サマリー、臨床実習に対する自己評価および感想文を提出する。

集合場所：研究棟A2階 セミナー室1

集合時間：初日月曜の午前9時半（初日が祝休日の場合は火曜の同時刻）

消化器内科 担当教員

消化管：

岡 志郎 教授、卜部祐司 准教授¹⁾、弓削 亮 講師、小刀崇弘 助教²⁾、瀧川英彦 助教²⁾、
檜山雄一 助教³⁾、山下 賢 診療講師²⁾、田中秀典 診療講師²⁾、壺井章克 診療講師

肝臓：

柘植雅貴 准教授、三木大樹 講師、河岡友和 講師、村上英介 診療講師、中原隆志 診療准教授、
大野敦司 診療講師、藤野初江 診療講師、内川慎介 助教

胆膵：

芹川正浩 講師、石井康隆 診療講師、辰川裕美子 助教³⁾、中村真也 助教

1) 消化器内視鏡医学講座 2) 内視鏡診療科 3) 広島臨床研究開発支援センター

連絡先 消化器内科医局：082-257-5193 教務担当：柘植雅貴 tsuge@hiroshima-u.ac.jp